何気なく住んできた四絡の昔を知る、郷土に愛着心を深め、ふるさとの歴史を次世代につなぐ「四絡の昔を知ろう」
矢野町　吾郷弘司さんに地質学の観点から四絡の歴史を紹介していただきます。

『四絡の昔を知ろう』(その1)

◎はじめに

四絡地区については、昭和６１年に発刊された「四絡郷土誌」をはじめ、「出雲国風土記」や「出雲市地名考」、さらには教育委員会発行の「発掘調査報告書」等で詳しく紹介されている。特に３３名の委員の皆様によって編集された「四絡郷土誌」では四絡について詳しく述べられており、四絡のすべてがわかる極めてすぐれた資料だと考える。しかし、発刊後すでに３０年以上が経過し、その３０年間の四絡地区は驚異的な発展をとげており、特に人口の増加は目を見張るものがある。同時に四絡地区に対する歴史的認識が急速に薄れてきているのも事実である。

ご承知のように四絡地区には日頃から地史研究にかかわる方々も多く、多くの資料も提供されているが、ここではこれらの資料の比較的薄い部分のいくつかについて述べてみたいと思う。

今回は、「出雲平野の地質時代と歴史時代」「出雲平野（四絡地区）の誕生」「四絡地区の遺跡」「町名の変遷や地名の由来」　等について数回に分けて述べてみたい。

①出雲平野の地質時代と歴史時代

○地質時代

・地球誕生（４５億年前）から歴史時代（今から１～２万年前）までを言う。いわば地球の歴史のほとんどすべてが地質時代であると言える。

・その詳細は「地層」「岩石」「化石」、あるいはそれらの「残留放射能」などの調査でしかわからないが、当然のこととしてこれらのサンプルの大部分は地球内部に隠されているものであり、何かの弾み（地殻の変動や地震・災害・道路工事など）で私たちの目に届けられることになる。

・最近の身近な例では、斐伊川と神戸川の合流に伴う斐伊川排水路の工事が行われたが、同排水路北岸から大量の貝化石が出土し、当時四絡地区がドームで開催していた「ドーム祭り」で参加した地域の子供たちに提供した。

○歴史時代

・人類の出現には諸説があり、３万年～４万年前ではないかと推定されている。

・日本では旧石器時代からということになるが、この時代の検証は今だ十分ではなく、ほとんどは縄文時代から後であり、「縄文時代」「弥生時代」「中世」「近世」のおよそ１万年ばかりが歴史時代とされている。（資料　「歴史時代のあらまし」参照）

・この時代は人の存在を示す資料が主として「器（土器・陶器・磁器など）」や「住居跡」「生活痕」「貝塚」などとして残されている。

・四絡地区でも多くの遺跡（矢野、小山、大塚、姫原、渡橋）が確認されているが、そのほとんどは道路や建築物の工事にともなう発掘調査によるものである。

・発掘された遺物は市の教育委員会によって保管されているが、発掘現場は埋め戻されているものが多く、調査報告書として今に残されているものがほとんどである。

※次回は私たちが生活している出雲平野の形成について紹介します。

（文責　吾郷弘司）